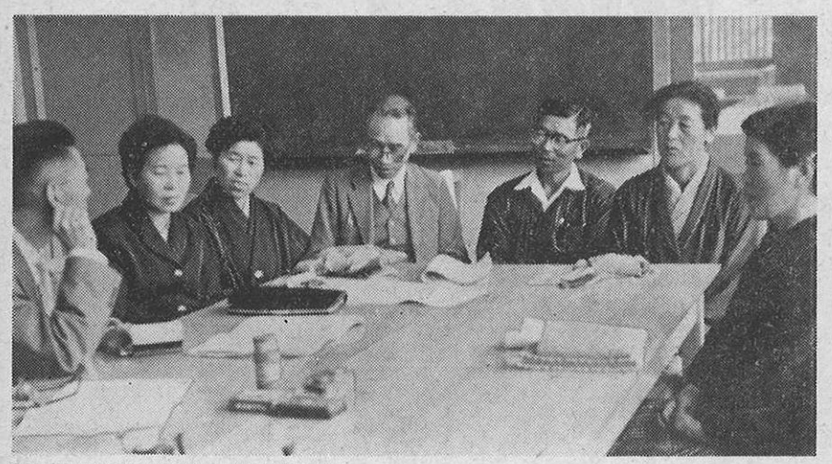
貯蓄する松本

座談会

——この不景気に貯蓄する金なんてあるもんかい。といつてしまえばそれまで、誰だつて貯蓄する金といつて別にあるわけではありません。ない中からつくり出すのが貯蓄ですといやにさとつたようなことをいいますが、まア次の記事を読んでください。
去る廿九年以来去年までに六回も郡や県から表彰され、この三月には大蔵大臣賞を受けるという輝かしい履歴をもつ貯蓄組合、砥用町農協婦人部の生きた座談会です　(白)



—出席者—

砥用農協婦人部長　緒方としこ　6
同　副部長　田村ツヨ　1
同　幹事　中村セツ　2
同　同　松村美寿　5
砥用農協営農指導員　松村亀喜　3
砥用公民館主事　田村広光　4
×
熊本県地方課主事　岩尾見竜　7
(貯蓄担当)

写真右から

はじめは卵貯金から

司会—貯蓄の大切なことは今更いうまでもなく、たれもが知つていることですがそれを実行にうつすことはなかなかむずかしい。そこで今日は県内屈指の貯蓄組合で、大臣賞までとられた皆さんの体験談をうかがつて、一般の方々にならつていただきたいというのがこの座談会の趣旨です。さしあたり結成当時の事情を部長さんから。

緒方—昭和二十八年頃から農協職員の方が農協強化のために町内を巡つて婦人部の結成をすゝめられたのが動機です。そこで従来の地域婦人会とは別に、農家の婦人によつて農協婦人部が出来たわけで、他の町村が地域婦人会をそのまゝ横すべりで作られた農協婦人部とちがい、共通した事情の下にある同業者のつどいということが、ここの強味だと思います

司会—できたのはいつ頃？

田村(広)—二十九年の九月十日に正式な結成をみたわけです。

緒方—婦人部の仕事は貯蓄と共同購販それに文化教育といつたような面ですが何といつても経済力をもつという事がすべての事業の根本ですから貯蓄には特に皆が力をそゝぎました。

司会—そこでその貯蓄の実際ですが、

田村(ツ)—まず卵貯金から始めました。もう四年前になりますが、一戸に十羽ずつ飼うことにして、その卵を毎週水曜日に集荷し、農協を通じて木曜日に出荷、金曜日に入札ということにします。

司会—集める方法は？

中島—全部落を五十四に分けてそれぞれ班長がおりますから、そこで集めたものを四ヵ所の集荷所に持ちより、更に農協へあつめるということにしています。

司会—現在の組合員はどの位

緒方—六百八十人ほどいます。今年になつて急に百人もふえました。班長の上に委員というのが二十二名おりますが、実さいに動くのは班長の場合が多いのです。

次には〃実もの貯金〃

司会—卵貯金の外にはどんな……

田村(ツ)—実もの貯金というのをやつています。これは麦とか大豆とか米とかの収獲時に、その一部を貯蓄するもので主人にはそれだけ女の力で増収したものというたて前にしてもらうのです

松村(亀)一人当り米で一斗から多いのは五俵などというのもありました。それを現物で集めて農協が買入れるのですが去年は米だけでも百五十万円にも達しました。

司会—俗にまつぼりというところですかな。

緒方—主婦への慰労金といいますか、夫にかくして箪笥(たんす)にしまいこむまつぼりとはちがつて、公然もらつて貯金にするわけですから主人もなつとくずみです。

田村—主人としても家のため村のためになる貯金ですからいやおうはないわけです。いやむしろ励まされています。

中島—そのほか月に一、二回各班の当番がまわつて現金を集め、それを農協に保管してある通帳にあずけ入れますし、年に二回、二月と七月には〃一日皆貯金〃という名目で必ず貯金することにしています。なお昨年は豊作感謝貯金というのが五十万円にも達しました。

松村(亀)—組合の貯蓄はすえおきが多くて、肥料など買う時に引出す位なものですから、農協としても利用価値が多く喜ばれています。

司会—で、貯蓄高はどんな風にふえていますか。

田村—順をおつていいますとね。

二九年	六八万九千円
三〇年	一一六万九千円
三一年	二八九万八千円
三二年	五二一万円
三三年	七九八万五千円
現在	九三〇万円

数えきれぬ貯蓄の効果

拡げたい全県への波紋

といつなように年々急激に増加しています。卵の集荷量も三十一年には一三、一四四キロだつたのが三十三年には三一、四七〇キロ(約八、四〇〇貫)にふえています。

松村(美)—成績がよいのでこの頃ではどこの家でも主人が喜んで協力してくれますし私たちも張り合いがあるわけです。

司会—貯蓄の利子はめいめいのものでしようが、婦人部の運転資金はどこから出るのですか。

緒方—第一に農協から貯蓄百万について一万つまり一分の奨励金が出ます、それから育成資金として別に年額二万、共同購入の払戻金が、三十三年度を例にとりますと二七〇万円について三万二千円ありました。

田村—それから共済保険の加入勧誘について契約高十万円につき三百円の手数料が出ますからこれは班の活動資金にくり入れます。

中島—簡易保険の集金も引受けていますからこれについても手数料が出ますがこれは班の活動資金にしています。

田村—毎年年度がわりに婦人部の総会をしますが、その時共販、共購、貯金残高、家の光購読数などに応じて一人平均割を出し、五位までの班を表彰します。貯金については別に町長から班単位で五位まで貯蓄奨励賞というのが出ることになつています。

司会—ところで貯蓄した金をどう活用するかですが、勿論農協としてはその金を十分役立てゝおられると思いますが、皆さんご自身としては如何です。

緒方—現在でも肥料の購入とか台所改善とか税金完納とかいう面に役立つているのですが、今年は特に購売、納税準備などの目的貯金を励行したいと思つています。いずれにしても今年は三百万円増加を目標にしてがんばるつもりです。

松村(亀)—貯蓄のかくれた効果としてお互いの接触が多くなつた結果人の和がとれて来たことや活動資金がふえたために生活改善、食改善営農技術などの各種講習会や見学などが出来るようになり結局村の暮しが豊かになつてきたことを挙げればなりますまい。肥料や農機具などの売掛金には日歩四銭五厘もついていたのがなくなつただけでも大きな効果です。

松村—も一つ家計簿をつける習慣がついてきたのも見逃せません。松村さんが講師で家の光の家計簿を皆つけるようになりました。これをつけなければ生活設計ができないと自然に自覚したわけです

松村—女がどしどし成績をあげるので男の方もじつとしていられないし、競争で仂くようになりました。

緒方—結局夫婦が協力して一家の経営に当るという習慣が出来たことを最大の効果ということができましよう。

司会—お忙しい中にいろいろありがとうございました。皆さんの貴重な体験と素ばらしい成績とはきつと全県に大きな波紋をひろげるでしよう。この上ともせいぜいがんばつて下さるようお願いします。

(広報課)